

第10回 市民と市長のふれあいトーク
報告書（要点）

日時：令和2年9月25日（金）午後7時から9時

会場：市役所 対策本部室

テーマ：「地域公共交通が果たす役割と自転車との連携について」

～武蔵野市の交通をもっと便利に～

出席者：小田急バス株式会社、関東バス株式会社、東京ハイヤー・タクシー協会武蔵・三支部、コミュニティ研究連絡会（地域公共交通活性化協議会）、レモンキャブ運行管理者（地域公共交通活性化協議会）、つながり運行事業者（杉並交通株式会社）、自転車等駐車対策協議会、吉祥寺駅周辺自転車等適正利用懇談会、武蔵野交通安全協会（2名）、（一財）日本交通安全教育普及協会 各代表者 計11名
傍聴者 1名

市長、都市整備部長、交通企画課地域交通担当課長、市民活動担当部長

1 開会

自己紹介

2 意見交換

(1) 自転車や車両の走行空間の整備について

- ・幹線道路と生活道路の役割に合わせて整備を行うと良い。市内の幹線道路が走りづらいので、生活道路を抜け道にしている自転車利用者がある。スピードを出して走っており、自転車利用者にとっても、生活道路を走る自動車の運転手にとっても危険だ。
- ・吉祥寺駅南口では、片側二車線の道路に出発待ちのバスが停車しているため、実質的に一車線になってしまっている。
- ・タクシー事業者の中で、時間規制やスクールゾーン等への送迎が課題になっている。お客様から電話をいただいても、規制ゾーンに入って迎えに行くと違反切符を切られてしまう。
- ・京都には自転車向けのわかりやすい標識がある。ぜひ見に行ってほしい。

(2) 自転車の走行マナーや免許制度、規制について

- ・片側二車線の車道を走る自転車が交差点で直進する際に、左側の車線ではなく右側の車線を走っているところを見かける。子どもより大人の走行マナーが悪い。行政を挙げて注意喚起をしてほしい。
- ・登校時の見守りの際に、横断歩道で黄色い旗を揚げても自転車は止まらない。事故が起こらないように児童の横断を止めることもある。子どもの頃から自転車が車両であることを教育する必要があると感じている。

- ・交通安全教育では、小さい子どもを持つ保護者への教育も行っている。
- ・親が赤信号を横断すると子どもがついていってしまう。まずは親の教育が必要。
- ・自転車の走行マナーは、市内だけでなく全国的な問題である。走行マナーを知らずに違反している方もいるが、知っていて違反している方もいる。子どもはしつけを通じて走行マナーを学ぶので、保護者には自転車安全利用講習会等を通じて走行マナーを知ってほしい。
- ・休日に保護者が校庭等で子どもに走行マナーを教えて、教えられた子どもが大人になったらまた子どもに教えていくという流れを作ると良い。長期的な視点で考える必要がある。
- ・子どものころから交通安全教育を充実させることは重要。保護者や兄弟と出かけたときに、子どもが家族を注意できれば効果があると思う。
- ・自動車免許に反映させる仕組みがあれば、自転車の交通違反を抑制できるのではないか。
- ・自転車の走行台数が多いので、武蔵野市から国や東京都へ自転車免許制度について声を上げていいと思う。
- ・加速度や重量から考えると、電動自転車が非常に危険。購入を許可制にするか、販売を規制した方が良い。また、モーターの軽量化など業界への働きかけも必要と考える。
- ・市内の事業者から従業員に自転車保険に入るよう働きかけてもらおうと効果的ではないか。
- ・自転車保険と教育はセットで考えるべき。市内の企業や学校といったところでの教育だけでも走行マナーは変わってくると思う。武蔵野市は自転車安全利用講習会の参加人数が非常に多いので、もう一步先に進めるはずだ。
- ・自転車の走行マナーに対しては表彰制度が有効ではないか。基準を定めて各高校に1人ずつお手本となる人を任命すると、周囲の人にも啓発されると考える。
- ・交通安全協会では自動車で長年無事故無違反の方や地域の交通安全に寄与した会員に対して表彰しているが、市民全てを対象とすると難しい部分がある。子どもに対する教育としては、学校のカリキュラムに交通安全を組み込むと良いのではないか。
- ・教育を受けた子どもが家族に対して注意するのも良いが、大人がルールに厳しくなる必要がある。また、無灯火で走っている自転車は急激に減っており、教育や啓発を重ねた効果だと思う。
- ・車であれば車両番号を控えればよいが、自転車の場合は注意するとトラブルにつながる場合もあるので注意しにくいのではないか。
- ・自転車は罰金がないから交通違反が多いのではないか。バーコードや番号で自転車を管理できるようになれば、罰金制度等も導入できるのではないか。
- ・自転車が車両であることやルールを知らずに交通違反をする方もいる。長期的に教えていく必要がある。
- ・ドライブレコーダーによって以前はわからなかった歩行者や自転車の過失がわかるようになった。生々しい映像を見せることも教育方法の一つではないか。
- ・自転車の左側通行の徹底や、優先道路と非優先道路との違い、一時停止の必要性を伝

えることが必要だと考える。

- ・20分間程度の交通安全教育動画を作成して市ホームページで公開したり、コミュニティセンターの講習会で上映したりしてもらってはどうか。また、自動車免許更新講習の際に自転車事故について取り上げてもらうのも効果的だと思う。
- ・自転車が歩道から車道に飛び出してバスが急ブレーキをかけると、車内でお客様が転倒する危険がある。たとえ交通事故にならなくても、バスの運行は止まってしまう。バス車内で動画を流す等の啓発活動を行っているが、市民の皆様にも知っていただければと思う。

(3) 放置自転車について

- ・放置自転車を通報しても、市役所や警察でたらい回しにされてしまうことがあった。

(4) 市内を走行するバスについて

- ・吉祥寺から市役所行きのバスの本数が少ない。ムーバスを市役所も経由するようにしてほしい。また、武蔵境地域から市役所行きのバスもないので、市役所からバス会社へ提案してはどうか。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、バス利用者は大きく減少した。ゴールデンウィークの時期と比較して回復しているものの、コロナ禍以前の水準には戻っておらず、時間帯や路線によっては減便せざるを得ない状況である。
- ・朝のバス利用者数はコロナ禍においてもあまり変化していないため、昼間や夜間の便数を調整して対応している。また、空港行きの長距離路線等を減便・運行中止している。

3 閉会